

企業とNPOのパートナーシップ支援事業
事業テーマ 応募用紙

様式1

企業名・団体名	特定非営利活動法人 峠工房
業務（活動）内容	知的障害者、発達障害児・者、小中学生支援、教育等相談・研修、共に生きる社会を目指す交流活動

事業テーマ名	共に学び、共に働き、共に生きるためのコミュニケーション教室
テーマの説明	世の中のグローバル化、IT化に伴い学校教育も大きく変化し、本来一番重要と考えるべき国語の指導が疎かになり、結果として若者達が社会で苦勞をしたり、年長の者が上手く関係を築けず苦勞をしたりする事が大きな社会問題となっています。又、知能が高い為障害者と認められなかったり、見過ごされてしまったりして社会生活を余儀なくされているアスペルガー症候群、高機能自閉症の人達は、彼らに適した指導教育で大きな力を発揮できますが、経済活動の場である企業や会社ではそれができず、持て余しています。そうした問題をお互いが理解し歩み寄り改善する為のコミュニケーション教室を定期的に行います。
相手方に期待すること	今まで培ってきたものとして社会にフィードバックする為の教室なので、広く知ってもらい、多くの人に利用してもらおう環境を期待しています。
応募者が提供できること	40年以上に渡り多くの知的障害者・発達障害者を支援し世に送り出して来た実績とキャンプ等の交流活動を実施し地域社会の理解を深めて来た実績、そしてカウンセラーとしての技巧を合わせたコミュニケーションスキルを提供します。

※事業テーマの内容を相手方に分かりやすく伝えるため、説明資料を添付することを強くおすすめします。（様式は自由。A4判5枚以内、片面印刷）

【ともに学び、ともに働き、ともに生きるためのコミュニケーション教室概要】

峠工房は昭和44年、「地域で生きることを中心に据えて、その人なりの自立をめざす教育・訓練、ひとりひとりと向き合った精神的支援」という理念に基づき設立しましたが、当時の行政の方針と折り合えなかったために福祉施設としての認可がおりず、以来40年以上に渡り、認可外障害者教育訓練施設として運営を続けて来ました。

認可外である事を生かしたフットワークの軽さやタイミングの良い動き、周辺地域への働きかけや、バリアのない行事の実施などを実施し、峠でなければできないこと、峠だからこそできること、人間にとって本当に必要なことを追求してきました。

社会の枠組みやルールを認識し、理解し、生活の中での対応を学ぶ個別コミュニケーション教室「生活塾」、宿題や自主学习を側面支援しながら、放課後の子どもたちに居場所を提供する「小・中学生放課後くらぶ」、心理カウンセリング、交流活動等を実施し、必要な事を必要な人へと障害を持つ人たちと向き合い、人間にとって本当に必要なことを追求し、それを願う親子の力になれる存在でありたいと常に考えともに歩み続けて来ました。

2009年、更に大きく活動を広げるために特定非営利活動法人となり現在に至ります。

峠工房としての日常の事業の中で、世の中のグローバル化、IT化に伴い大きく変化した学校教育が、多くの若者を困らせ、またそうした若者達と交流する世代や企業、社会でも大きな問題を生み出していると感じています。

英語や情報処理などが重視され、本来一番重要であるはずの国語力の育成がないがしろにされ、そうした教育を受けた若者達の表現力やコミュニケーション能力が乏しくなり、結果として自分の気持ちをうまく表現できなかったり、社会的な慣習を知らず社会人として大きなミスをしてしまったりと社会で苦労を重ね、心をすり減らしています。また、そうした若者たちを本来手助けしたり育成したりする立場である年長の者が上手く関係を築けず、フォローもままならない場合などが見られます。

若者の自殺や離職率が上昇している現代社会においては切っても切れない社会問題となっています。

また、知能が高いため障害者と認められなかったり、見過ごされてしまったりして健常者と同じ社会生活を余儀なくされているアスペルが一症候群、高機能自閉症。彼らは育成次第で大きな力を発揮できる人材ですが、企業や会社は経済活動の場であり、仕事や業務に関する指導・教育はしても、生活や社会の枠組みやルールの教育の場ではないので、根源的な問題点を改善できず伸ばす事が出来ず持て余してしまっています。

これらの問題は、若者は年長者を、社会を、企業や会社を、年長者、社会、企業や会社は若者を、お互いが理解し歩み寄れば改善できるはずですが、峠工房が多くの知的障害者、発達障害児・者、子どもたちと触れ合い、関わり、彼ら彼女らを理解し支援する上で身につけて来たコミュニケーションのノウハウをフィードバックする事で、ともすれば埋もれていく人材を人財として掘り起こし、一人では為せない事も結びついた心で可能となる、そんなともに学ぶ、ともに働く、ともに生きる社会を作り上げていけると考えています。

峠工房とは

峠工房は、神奈川県横浜市神奈川区の公立中学校で、自ら作った特殊学校の担任をしていた創立者・松本 威が、知的障害者の生徒たちの最終学歴が中学であることを重く受けとめ、もっと時間をかければ社会に送り出せる、又は、一旦世に出てもつまずいて落ちこぼれてしまう生徒たちをなんとかしたいと考えて、昭和44年（1969年）に、障害者教育訓練施設として開設いたしました。当時、知的障害児たちの中学特殊学級卒業後の進路が殆ど閉ざされていた時代に、労働（作業）・生活・学習を本柱として、密接に連携をとり、生まれ育った地域社会での自立を目指す理念で出発しましたが、当時の法律にあわないう考え方で、やむなく認可不可のまま動き出しました。その後、行政側と連携や話し合いを重ねました。無認可であることのフットワークの軽さやダイニングの良い動き、周辺（地域）への働きかけや、バリアのない行事の実施など、昨までなければできなかった、一貫からこそできること、人間にとっても必要なことと追求して行こうと決め、以後、一貫した理念のもとで必要なことを必要な人へと障害を持つ人たちと向き合い続けています。

2004年ごろより、軽度発達障害児（者）との関わりを深め、2005年から2006年にかけて集中的に実施した個別対応のコミュニケーション教室により、個々の対応者に合わせた教材指導が、大きな成長を促し、学校教育現場という集団の中での変容にも繋がっていることを実感しています。現在は生活塾と改称継続し、学外支援に力を入れています。濃い関係を結んで導き出された方針は次のようなものです。

- ① コミュニケーション能力を培い、育てる。
- ② 困難力を培く。
- ③ 小さな社会体験を積み重ねる。
- ④ 社会で適用する技能を身につけるための支援。

この方針は、コミュニケーション力、言語表現力が弱い子どもが増えているという一般的な状況にもあてはまることなどから、「小・中学生放課後くらぶ」として、居場所提供、見守りを兼ねた放課後支援事業的役割も果たしています。

また自在に対応できるという利点もあり、集団生活を拒むタイプの不登校生の居場所としても利用されています。

個人事業として、できる限りの努力はしてきましたが、障害児（者）支援機関として、個々に対応する状況は非常に難しく、利用者の未来に対して責任をまっとうできないという危機感を持ち続けており、2009年10月、それまで支持されてきた内容をすべて縮減して、NPO法人格になりました。

また、社会的信用が増すことで、予算削減や人材不足に悩む公教育現場との連携、支援の届きにくい成人・青年層への貢献の道を広げていくこともめざしています。

法人格を持つことにより、社会的信用度を高め、維持・運営の安定を図るとともに、峠工房の理念、「地域で生きることを中心に据えて、その人なりの自立をめざす教育・訓練、ひとりひとりと向き合った精神的支援」を継続していける体制を構築し、それを願う人たちに寄り添い、力になれる存在でありたいと常に考えています。

事業活動方針

制度の隙間、法外の台間、公教育の手厚な部分を社会資源として広く支援していく。

内 容

○ 知的障害者・発達障害児・者、小・中学生支援

① この社会での生活者に育てるということを中心に据え、自分を取り囲む世界（学校・社会）の枠組、ルールを認識し、理解し、生活の中で教師を身に付け、自分自身で対応できる力を養う支援教育を行います。

コミュニケーション力、言語表現力が弱い子どもが増えているという一般的な状況も考慮し、発達障害児（者）向けではあるが、特に強い制限はない方針で、子ども本人が納得できるように、その成長段階に即した、ひとりひとりを大切にしたい個別対応カリキュラムで、柔軟な支援を実施します。

② 将来に向けての充実した社会生活の自立・職業生活の自立を目指し、「労働（作業）」、「生活」「学習」の3本柱を密接に関連させて、社会進出を目標に向けた訓練・支援を行うとともに、多様な社会体験を積み重ねることで、充実した自立生活を送れるよう継続して支援します。

③ 小・中学生放課後クラブ

宿題や自主学習のための場所を提供し、集中力・自発性を高められるよう、側面支援を行い、時間状況に即して、余暇活動や読書指導、困難力を培くための補綴を行います。学習につまづきがある子どもには、つまづいているところの手助けを、また、要請があれば、帰宅時の送り、拠点駅までの送迎も利用。

○ ところの談話室

心理カウンセリング、教育相談、その他相談。

○ ともに生きる社会を目指す交流諸活動事業

① 障害者、健常者、子ども、大人等若男女総ての人が参加出来る各種行事等の開催。

② 真坂園の会

木坂園家・高橋幸子さんを講師に迎えての版画教室です。

真坂園の会は、草野英のそれと同じで、やっている人が楽しいのが一番大切ということと名づけました。

この教室の特徴は、もともとが峠工房の生徒のために始まったことなので、日常の小運動や簡単な絵画が子どもも大人も喜びます。それをありのままに受けとめてくれていてはいる会員の先生たちが、同じ楽しみを共有し、ほごやかな空間を創りあげています。

小・中学生放課後くらぶ

- 居場所提供と見守り
宿題や自主学習のための場所を提供し、集中力・自発性を高められるよう、側面支援をします。
- 時間状況に応じて、余暇活動や読書指導、園語力を磨くための補習をします。
- 学習につまづきがある子どもには、つまづいているところの手助けをします。
- 要請があれば、帰宅時の送り、拠点駅までの送迎もいたします。
- 不登校になった児童生徒の緊急避難場所としてもご利用いただいております。

園月謝 8000円

園週1回、2～3時間程度。基本の曜日を決めてください。

基本日以外にも利用する場合、また振替希望の時は、電話でご連絡ください。

月謝は変わりませんが、月12回以上は、12000円となります。

園不定期に利用希望の人は、生活塾に準じます。

※授業料は、通常の習いごとの範囲以内、又は以下におさえて、
通い続けられるよう配慮しています。

〈くわしくは電話でお問合せください〉

電話 045(301)4646

ご案内では基本的なことを提示していますが、相談者の立場に添って、
時間・場所・相談料金等も考慮いたします。

峠工房の

発達障害児・者向き

生活塾・親子相談

小・中学生対象(幼稚園は年中から)

小・中学生放課後くらぶ



ご案内

特定非営利活動法人

峠工房

〒245-0018 横浜市泉区上飯田町4729

電話/FAX 045(301)4646

ホームページ <http://tougekobo.sakura.ne.jp/>

園長・カウンセラー 松本 淑子

生活塾

生活塾は、峠工房主催の諸活動、支援プログラム、親の会との連携行事等を通して浮き彫りとなった、軽度発達障害児の抱える問題点や、支援の手続きによる親子の悩みなどに対して、本来の意味で個別対応の必要性を痛感して実施していた、「個別支援コミュニケーション教室」が前身です。

この事業が、2005年に、ひまわり厚生財団より、助成対象事業に選ばれ、1年間の研究、実践活動を経て、「生活塾」と改名しました。

コミュニケーション力、言語表現力が弱い子どもが増えているという一般的な状況も考えて、発達障害児向きではあるけれど、特に制限しないという方針で、子どもたちのために、最も必要とされることにきめ細かく対応し、支援し、成長を促すことを目標とした内容です。

この社会での「生活者」に育てるといふことを考えていくと、生活の中での対応を身につける、自分自身で対処できる力を養う——つまり、自分をとり囲む世界(社会)の枠組、ルール、を認識し、理解していくことが求められます。子ども本人が納得できるように、小さな体験をつみ重ね、その成長段階に応じた学習、訓練内容を中心に伝え、ひとりひとりを大切にしたい個別対応カリキュラムを原則として柔軟に対応しております。

内容

- ★豊くことよりも、会話を重視します。
特に低年齢の場合は、遊びなどを中心に自己表現を身につけられるよう工夫します。
- ★マンツーマン、又はそれに近い形を基本とし、個々の成長や事情に合わせて、グループ構成を考えて行きます。
- ★内容はできる限り本人が体験したことや、日常の出来事を中心に展開します。
- ★ひとりひとりの個性を見極め、好きなこと、興味のあることなどを手がかりに、学習内容や教材を研究します。
- ★伸び悩んでいる部分、本人の生きにくさの源となっている部分にのみ働きかけるのではなく、人間丸ごとの成長を促す多彩な内容を重視した支援を考えて行きます。

個別対応カリキュラムの大まかな基本方針

幼児・低学年

身辺自立と周囲へのかわりを日常生活の中で見おぼし、深める。遊び中心。

中・高学年

自己認識の必要性、自我と周囲との関連。学習面も含めての苦手の克服。個々の得意分野を活用していく。

中学生以上

生活者として求められること、必要なこと。成人はカウンセリング中心になる場合があります。

親子相談

生活塾は、個別対応で身につけ、成長したことを、集団の中で生かし、自己発見できるように配慮し、目標としています。それでも日々、様々なトラブルを乗り越え、なくてはなりません。親にとっても子にとっても、つらいことが多いと思いますが、日常の小さなことから、対学校(教育機関)などへの要望(お願い)や、理解を求める方法など、具体的に解決できるような道を探ります。

1人で悩まない。親であるが故に迷うこと。家庭での対処法。さまざまなことをいっしょに考えていきます。

生活塾は予約制です。まずメンバー登録をしてください。

学外支援なので、都合の良い日を選んで1回ずつ電話予約をしてください。

副授業料

1回 2000円 ※2時間でも1日でも同料金です。

副受講を決める前に必ず個別面談(無料)を受けてください。

参加者の情報、親の考え希望等について、くわしくうかがいます。

親子相談は、生活塾登録者は原則として無料。

相談のみの場合は、2時間 2000円

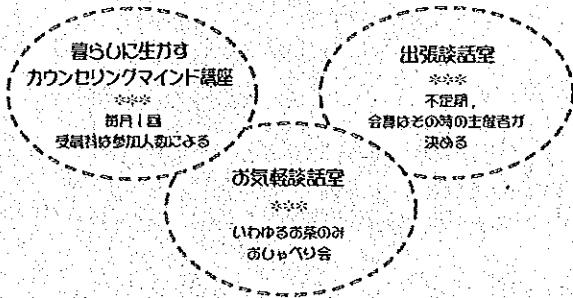
※如少のきょうだいがいて相談等に出向きにくい場合、提携保育施設があります。

カウンセリングは、悩んでいる人だけの
ためのものではありません。

自分を見つめ 自分を大切に
人とかかわりを深めるために

こどもの心を聴き こどもの人間関係能力を高め
感情を言葉で表現するために

日常生活のさまざまな場面で、
カウンセリングマインドは生かされます。
聞いて、話して、知って——まず1歩!



くわしくは電話でお問合せください

電話 045(301)4646

教育相談・カウンセリングの ご案内



相談・カウンセリングルーム こころの談話室

NPO法人 峠工房

〒245-0018 横浜市区上飯田町4729 電話/FAX 045(301)4646

理事長・カウンセラー 松本 淑子

21世紀は「心の時代」と言われて久しいですが、現実には、おとなも
子どもも生きにくさを増していっています。そんな中で、自分ひとりで
悩みをかかえてこんでしまったり、ほんのちょっとした行き違いがきっかけ
となって迷路の中に入りこみ苦しんでいる人たちも増えています。

また、助けを求めても必要な助けが得られなかったり、自らの1歩がふ
み出せずに自分の心との対峙を回避しようとするなど、それぞれの状況
に応じた援助さえあれば、精神的に前向きに立ちなおれるような場合も、
日常見すごされがちです。

峠工房では、このような状況を重く考えて、心理カウンセリング・教
育相談・その他の相談部門の充実をめざし、「こころの談話室」として、
相談・カウンセリングに常時対応できるようにするとともに、場所さえ
提供していただければ、出向いての相談にも応じられるよう、さまざま
な体制を整えました。

30年以上にわたって、常に求職者の側に立って取り組んできて蓄積さ
れた経験・知識・技能、そして時間をかけて研鑽を積んできたことを財
産として、社会に貢献していきたいと考えております。

「ともに生きる社会」についてのこんだん会等にも、お声をかけ
ていただければ、参上いたします。



■面談は事情のない限り1対1の個人面談です。

特にカウンセリングの場合、カウンセラーは守秘義務を負っているの
で、特別な事情、本人の承諾なしには、家族といえども他者に面談の
内容を明かすことはありません。

■面談日・時間

【面談日】 毎週、月曜日～土曜日

【時間】 午後1:30～7:30 土曜日 午前9:00～午後6:00

※日時は予約時に相談の上決めます。

※事情のあるかたには、話し合いの上、

日曜にも面談に応じることがあります。

■相談は予約制です

【予約受付】 月曜日～金曜日

午前9:00～12:00 午後6:00～9:00

■1回の面談は

【カウンセリング】 60分

【教育相談】 90分以内

(家族相談、思春期相談等も同様)

■料金

初 回 5000円

2回目以降 3000円

※月ぎめで、いつでも相談できるようなコースもあります。